

**委託事業実施内容報告書**  
**平成 22 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業**  
**【ボランティアを対象とした実践的研修】**

受託団体 大阪府教育委員会

### **1. 事業の趣旨・目的**

大阪府内の識字・日本語教室は、ボランティアの人々によって支えられているが、近年、各教室の学習者の国際化、多様化が急速に進み、その対応に苦慮している。支援者の不足、学習のすすめ方や生活支援に関する相談への対応など多くの課題をかかえながら活動しているのが現状である。

本事業において、そうした課題をかかえる支援者が教室運営や学習指導において必要なことから学び教室を活性化するとともに、日本語学習支援に関心のある新たな地域人材を発掘し養成することによって、府民の生活の基礎を支える識字・日本語教室を充実させることを目的とする日本語学習指導者スキルアップ研修を実施する。

### **2. 企画委員会の開催について**

#### **【概要】**

\* 第 1 回 企画委員会(大阪府識字・日本語学習市町村担当者会議 ネットワーク拡大部会)

#### 1 目的

- 府内における識字・日本語教育の現状や課題、識字・日本語問題に関する啓発等について研究協議するとともに、担当者のネットワーク化を図る。
- 府と市町村が連携した識字・日本語活動の活性化に向け、文化庁事業「『生活者としての外国人』のための日本語教育事業」(ボランティアを対象とした実践的研修)を活用して日本語学習指導者スキルアップ研修を実施する。

2 日時 平成 22 年 6 月 24 日(木) 15:00~17:15

3 場所 HRCビル<sup>アイアイ</sup>(AIAIおおさか) 10 階 特別会議室 (別紙参照)

4 出席者 別紙出席者名簿のとおり

#### 5 内容

- あいさつ、出席者等の紹介
- 実践研修会の開催について

今年度の識字・日本語学習活動の活性化に向けた取組みについて

【現状と課題】「識字・日本語学習環境実態調査」の結果から・3点

- ① 識字・日本語教室数の増加を上回る学習者の急速な増加
- ② 多様化、国際化する外国人学習者への対応が困難になっていること

③ 教室の開設およびその運営はボランティアに頼っており、継続性に課題  
これらのことから、地域に根ざした持続可能な教室の整備に取り組むことが必要

#### 【取組みの概要】

- ① まず第一に、教育委員会や首長部局等の自治体内はもとより、市町村間、大学、国際交流協会、関係NPOのネットワークを構築し、識字・日本語学習についての研修、ノウハウや人材の流動化を進める。
- ② 第二に、各教室や市町村単位で開発が困難な学習教材、不足するボランティア人材など、新たな教室の設置や拡充に役立つ情報などを上記ネットワークやホームページで提供する。また、これらのことは府と市町村が一緒になってやっていく。

◇全体研修会について ⇒ ネットワーク拡大部会で企画

◇地区別研修会について ⇒ ブロック別担当者会議で企画

#### ○その他(情報交換)

#### \* 第2回 企画委員会

【日 時】 平成 22 年 10 月 22 日（金） 10:00～11:35

【場 所】 大阪府公館

【出席者】 別紙出席者名簿のとおり

#### 【概 要】

1. あいさつ／地域教育振興課首席指導主事
2. 今年度の各取組みの進捗状況について

○資料により説明／地域教育振興課主任指導主事

○各ブロック代表（資料参考）

＜豊能ブロック：豊中市教育委員会地域教育振興課＞

- ・学習支援者の実践交流を中心に研修会開催を検討中で、時期は2月下旬～3月上旬を予定。
- ・場所は豊中駅前ステップ又はとよなか国際交流センターで調整中。
- ・日本語教室へ参加を声かけ

＜三島ブロック：茨木市教育委員会地域教育振興課＞

- ・例年2月頃に識字教室中心で学習者10名、支援者等15名程度で研修会実施。
- ・今年は担当者が消極的で11月14日よみかき交流会の全体発表をブロック別に代える。
- ・現在、学習者、支援者に対し、交流会についてアンケートをとっており、まとめているところ。次年度に向けて活用したい。

＜北河内ブロック：大東市教育委員会生涯学習課＞

- ・今年度は2/13に実施。各教室からの取組み報告と学習の進め方についての協議中心。

＜中河内ブロック：東大阪市教育委員会社会教育課＞

- ・研修会開催に向け検討中。

＜南河内ブロック：松原市教育委員会地域教育振興課＞

- ・教室のない町村があり、参考となるような研修会が開催できればと検討中。

＜堺・泉北ブロック：堺市教育委員会地域交流課＞

- ・2/27 堺市立人権ふれあいセンターで実施。

＜泉南ブロック：府教委＞※岸和田市教育委員会生涯学習課欠席のため

- ・各担当者が各教室に聞き取りし、次回会議（10/28）に各自持ち寄り研修会開催に向けて検討。

※岸和田市：日本語教室4教室から支援者が参加予定

※泉佐野市：日本語教室から支援者が10名程度予定。スキルアップできる内容であれば更に参加増の見込み。

※泉南市：支援者が参加予定。教室間のつながりを希望。

※貝塚市：支援者が数名参加予定

※熊取町：5名程度参加予定

＜大阪市教育委員会生涯学習担当＞

- ・識字・日本語教室の支援者中心の研修会を開催予定。市総合生涯学習センターで2/5に実施。
- ・地域日本語交流教室の支援者中心の研修会を市総合生涯学習センターで3月実施。

○情報交換

（研究会）

- ・豊中市は子どもの日本語学習支援に力を入れている。我々は子どもの日本語保障に弱いところがある。母語保障など、子どもたちへの日本語学習をどうするかなど課題。

学習者の発表の中で、高校生や子どもなどもあれば地域の特色を生かした交流会となるのでは。

（豊中市）

- ・親子参加の教室を開催している。

（箕面市）

- ・“子どもホット事業”として国際交流センターと連携し、毎週土曜日に実施。学生ボランティアなどにより宿題を教えるなど実施。母語教育も多少サポートしている。

3. 「2010 よみかき全体研修会」の役割分担について

○研究会事務局長から

- ・現時点での参加申込は約 350 名。最終 400 名程度の見込み。
- ・B「おしゃべりのひろば」とC「作文のひろば」の分散会数は流動的。
- ・進行役は夜中、教室支援者、識字日本語連絡会など複数のメンバーで実施。
- ・記録担当者には各分科会の様子をまとめていただきたい。報告の雛形は事前に識字・日本語研究会からお知らせする。
- ・報告いただいた内容をホームページにUP。
- ・記録用の録音機器（必要とする場合）は各自でお願いしたい。
- ・写真は識字・日本語研究会で撮影。
- ・報告は、司会や記録担当者の感想も含め、当日の雰囲気が伝わるような内容で作成して欲しい。

#### 4. 協議：（テーマ）新たな教室の立ち上げに向けて ～課題の共有～

##### ○市町村別外国人登録者数と教室数

- ・資料 6 により説明／研究会事務局長
- ・府内では 40 人に 1 人が外国人であり、大阪市内は 20 人に 1 人。
- ・大阪市内には 4 区教室のない区がある。
- ・教室のない町村の状況やニーズを聞き取りし、教室立ち上げの支援や更なる教室の増加に努めていきたいと考えている。

##### ○識字・日本語研究会ホームページ／研究会事務局長

- ・識字日本語研究会の HP がようやくまとまったところ。先日、情報発信部会にて、市町村の動き、各教室の情報、民間団体に関する情報など提供いただくようお願いしたところ。
- ・識字・日本語に関する様々な情報を集め、発信していきたい。

##### ○大阪教育大学との連携／地域教育振興課首席指導主事

- ・昨年度の実態調査の結果、支援者の不足、スキル不足などの課題  
⇒ 大教大との連携（毎年、府教委と大教大との間で連携会議を開催）
- ・大教大においては第 2 期中期計画（H22 年度～6 年間）に「地域の識字・日本語学習の支援」を位置づけ。
- ・2～3 月の土曜日に、天王寺キャンパスにて支援者の研修交流の場（カフェ）を検討中。
- ・来年度、先生方を中心に支援者を拡大できるような語学中心の公開講座を春と秋の 2 回開催予定。スキルアップやマネージメント、リーダー的人材の養成ができればと考えている。

#### <意見交換>

##### （松原市）

- ・市内の教室には研修生が多いが、1 年を通じてみると波（人数変動）がある。近

年、学習者が減少傾向にある。

**(国際交流・観光課)**

- ・先日の指導者養成講座での講師からもそのような話があった。

**(人権室)**

- ・府内の外国人登録者数も減少傾向。

**(研究会)**

- ・教室からも研修生は減っていると聞く。
- ・なお、研修生の受け入れに関しては是非があり、国や企業がフォローすべきという声もある（研修生は3年で帰国）。また、支援者が研修制度を知らず、うまく対応できていない例もあるようだ。
- ・各教室さまざまな特色（基礎レベル、スキルアップ、交流中心など）があり、教室間の。交流により広がりができる。それぞれどのような教室をめざしていくか。
- ・支援者だけの会合の場なども必要と考えている。

**(大東市)**

- ・文化庁の助成を受け、スキルアップ講座を実施（10回）。近隣市からも参加され、受講者からはニーズがある。今回の北河内での支援者研修に重複している方もいる。
- ・内容は実践的なもので、敬語や表現で分かりにくいものなど。

**(松原市)**

- ・ある行政（横浜市）のHPは、やさしい日本語を活用した内容となっており、外国人に対して分かりやすいサイトとなっている。

**(国際交流・観光課)**

- ・4、5年前に国際交流協会に委託し、“やさしい日本語活用冊子”を作成し当課のHPに掲載している。地域の日本人の方が、外国人とのコミュニケーションを図るためのもので、やさしい日本語を用い作成したもの。
- ・情報という点では、現在、情報流通調査事業を実施しているところ。府HPや多言語で作成した行政情報が在住外国人にどのような状況で伝わっているか不明。地域のキーパーソンや拠点等を調査し、今後の府政情報提供に活用する。結果がまとまればお知らせさせていただく。

**(箕面市)**

- ・やさしい日本語生活ガイドを作成しHPに掲載している。ふりがなをつけることや二重否定を用いないなど。

※ ネットワーク拡大部会 次回開催予定：年度末（各ブロック研修会開催後）

### \* 第3回 企画委員会

【日 時】 平成23年2月28日(金) 14:30~17:00

【場 所】 大阪府新別館南館「ホテル プリムローズ大阪」2階「羽衣」

【出席者】 別紙出席者名簿のとおり

【概 要】

1 あいさつ

2 平成22年度の取組み報告

① 府教委より

- ・教材作成は、『外国人学習者が大阪で生活を始めるために、まず、必要になる会話を習得するための教材』というコンセプトで作成。識字・日本語研究会のHPに4月から掲載予定。ご活用いただくとともに、各教室への情報提供も併せてお願いしたい。
- ・ブロック別研修会は、これまでも研修会を開催されていたブロックに加え、今年度は、南河内ブロックと泉南ブロックでも研修会が開催された。
- ・研修会の開催にあたっては、市町村の広報に記事を掲載したり、中学校夜間学級にもチラシを届けていただくなど、広く周知していただいたところもあった。
- ・以前から指摘されている潜在的識字学習者の掘り起し、あるいは、情報を届けるためには、身近な居住地域における取組みの実施とその広報が最も有効である。各ブロックともに、来年度以降も、ぜひ、交流会の継続をお願いしたい。
- ・府内全体の「よみかきこうりゅうかい」は、大阪府教育センターで11月14日(日)に開催され、識字・日本語教室や夜間中学校等、50団体、約520人の参加であった。
- ・日本語学習指導者養成研修は北河内ブロックで実施し、78名の方々が受講された。
- ・第1回の研修で講演いただいた大阪大学の西口先生は、多文化共生の町づくりの実現に向け、現在、府内の各教室で外国人学習者の日本語習得支援にあたっておられる方々を“フロンティア市民”と呼ばれ、学習支援活動の意義を熱く述べられた。
- ・また、富田林国際交流協会の前川事務局長は、富田林での取組みの苦労話や楽しいエピソードを交えながら、支援者の方々へ激励のメッセージを送った。
- ・第2回～第5回担当の大阪教育大学の中山先生と井ノ口先生は、5～6人のグループ単位によるワークを取り入れながら、日本語文法について講義された。
- ・第6回は、大阪教育大学の森先生から、人権教育の観点からの人的支援のありかたを中心として、これからの日本語学習支援者に望むことについて講演いただき、研修を終了した。

- ・大阪府教育委員会では、今年度から、識字・日本語学習における大阪教育大学との連携を進めており、3月12日（土）には、大阪教育大学天王寺キャンパスにおいて、「おおさか・よみかきカフェ in てんのうじ」を開催する。各市町村の学習支援者はもとより、行政担当者の皆さまにもふるってご参加いただきたい。
- ・今年度の一番の成果は、府と市町村の皆さまとの連携が大きく進んだことである。  
同時に、市町村における識字教室担当課と日本語教室担当課の連携を進めていただいているところも増えてきた。
- ・府内の識字・日本語学習者の方々を支えるセーフティネットの構築を目的とし、平成23年度も「日本語学習活動活性化支援事業」を進めていく。次年度も引き続き、ご支援・ご協力いただきたい。

## ② 識字・日本語研究会より

- ・研究会として大事にしていることは、各教室とのネットワーク。学習者、支援者とお話していきたい。また、市町村の連携がどこまで深まるか。今年度は担当者会議に参加させていただき、沢山の方々と出会えた。
- ・府の事業、文化庁、文部科学省の事業を行っている。この中で、教材を作成しているが、ゼロビギナー向けの教材としている。これは、日本に来て、全く会話ができない人は、教室でも対応できないとの声があり、これを受けてのもの。
- ・4月以降ホームページに掲載するが、富士火災クラブが協力いただき、印刷できることになった。各教室に数部配ることはできると思う。
- ・文化庁の事業で、2月5日大阪市のブロック研修会を行った。識字・日本語学級の指導者研修会で、今後の識字のあり方を議論した。今年の夏、府内の全体研修会を考えているが、これに向けて行った。

## 3 新たな教室の立ち上げ事例報告

### ① 門真市「おしゃべりサロン」

市民と外国人の交流の場としてスタート。毎月テーマをきめて、外国人の方に発表いただき、様々なイベントを実施。

### ② 和泉市「日本語サロン」

識字・日本語教室は無料だが、あくまでも国際交流協議会のメンバーとして事業を行うので2,000円の会費をとり、有償事業として行う予定。

### ③ 松原市「一津屋団地集会所教室」

中国から帰国された方々が、府営住宅におられる。このため、支援者から一津屋で、日本語学級“もめん”の活動をしたい旨の申し出があった。市を通じて、自治会長に当たったら是非ということになった。今は、開設に向けて調整中。

### ④ 大阪市大正区「おとなの寺子屋」

大正区役所の中の情報コーナーでやっている。学習者1人に対して、ボランティア1～2名。始めは、高齢の方から孫のメールを見れないという相談があり、携帯の使いかたを教えたのがはじまりで、日本語学習をねらいとしてスタートしたものではなかった。おとなの居場所づくりの場として考えている。

#### 4 各ブロックからの報告（今年度の成果、新たな教室の立ち上げ等について）

- ① 豊能ブロック／豊中市教育委員会地域教育振興課
  - ・2/13 研修会開催。参加 62 名。※夜間中学との行事がバッティングし参加減。
  - ・学習支援者のワークショップ（課題研究と情報交換）はたいへん有意義。交流会（ゲーム、教室の様子などの発表）も実施。
  - ・交流会内容に広がり（豊中＋箕面⇒豊中＋箕面＋箕面国流＋池田）
  - ・教室（学びの場：豊中市）から夜間開催の要望があり今後検討
  - ・H22.9 ボランティア養成講座（とよなか国際交流協会主催）。今後、毎年開催の予定。
- ② 三島ブロック／茨木市教育委員会地域教育振興課
  - ・過去の交流会について、ほぼ担当者1人が切り盛りしていた。今後は各市に分担し運営開催できるよう検討。
  - ・教室へのアンケート結果を踏まえ今後の交流会を検討（少し方向性は見えてきた）。
- ③ 北河内ブロック／大東市教育委員会生涯学習課
  - ・2/13 研修会開催。参加 130 名。※各市持ち回りで実施⇒来年度は門真市で実施
  - ・支援者によるワークショップ、各教室からの発表、ゲーム、河内音頭等
  - ・文化庁事業を活用し、指導者ステップアップ講座を実施（大東市）。四條畷市や大阪市からも参加。
- ④ 中河内ブロック／東大阪市教育委員会社会教育課
  - ・9/8 市民のつどい開催（識字関係）。ブロック別研修会は各市の研修会への相互参加。来年度は合同研修会を検討。
- ⑤ 南河内ブロック／松原市教育委員会地域教育振興課
  - ・1/23 研修会開催。参加 40 名。来年度も第2回開催予定。
- ⑥ 泉北ブロック／堺市教育委員会地域交流課
  - ・2/27 研修会 開催。参加 129 名。
  - ・分科会（支援者 1、学習者 3）。ものづくりのひろば、おしゃべりのひろば、料理のひろば。
  - ・堺市で日本語指導者養成講座（入門編）実施。
- ⑦ 泉南ブロック／岸和田市教育委員会生涯学習課欠席 ⇒ 府教委
  - ・2/19 研修会開催。参加 28 名。支援者中心。支援者養成研修の要望の声が多くあった。
- ⑧ 大阪市／大阪市教育委員会生涯学習担当
  - ・2/5 研修会開催。参加 40 名。識字支援者中心。

- ・3/19 日本語支援者研修会を開催予定。
- ・教室拡大：梅田 2 教室、阿倍野 2 教室、大正 1 教室の計 5 教室
- ・平成 23 年度予算：今年度並み

⑨ 大教大との連携／府教委

- ・来年度 8 月頃に支援者リーダー養成研修を開催予定（天王寺キャンパス）。GW までに広報できるよう調整中。広く発信いただくようよろしく。

5 情報交換（府教委）

- ・文化庁予算申請：四條畷市
- ・日本語教室予算を新たに確保：摂津市
- ・府地域教育振興課ホームページに識字・日本語学習に関する情報を種々掲載。教材のダウンロードも可。

### 3 実践研修会の内容について

(1) 研修講座名

「平成 22 年度 日本語学習ボランティアスキルアップ研修」

(2) 研修の目標

増加する学習者に対応するために必要な新たな教室の設置や教室の拡充等に携わる人材を育成

(3) 受講者の総数

524 人

(4) 開催時間数

3 時間 10 回 （30 時間）

(5) 参加対象者の要件

日本語学習活動に関係する大阪府内在住、在勤、在学の方

(6) 受講者の募集方法

(全体)

識字・日本語研究会HPに掲載 ⇒ FAXもしくは電話で研究会へ申し込む  
各市町村担当者を通じて各教室へちらし送付

(地区別)

各市町村の広報誌に掲載

各市町村公民館等にちらしを置き、担当者が教室運営者・支援者等に案内  
申し込みは各地区担当者にFAXもしくは電話で申し込む

(7) 研修会場

回（※）	開催日	時間数	受講人数	会場
①	11月14日	4時間	524人	大阪府教育センター
②	1月23日	3時間	35人	羽曳野市役所 大会議室
③	2月5日	3時間	40人	大阪市立総合生涯学習センター
④	2月13日	3時間	62人	とよなか国際交流センター
⑤	2月13日	3時間	230人	大東市立総合文化センター

⑥	2月19日	3時間	31人	岸和田市立中央地区公民館
⑦	2月27日	3時間	150人	堺市立人権ふれあいセンター
⑧ 参考	3月12日	3時間	30人	大阪教育大学天王寺キャンパス
⑨ 参考	3月13日	3時間	30人	八尾市立八尾中学校
⑩ 参考	3月19日	3時間	30人	大阪市立総合生涯学習センター

### (8) 使用した教材・リソース

「もっとしゃべろ！！～じぶんでつくる学習ノート～」

(人権教育推進のための調査研究事業大阪府市町村協議会 2009年)

「日本語おしゃべりのたね」西口光一 (スリーエーネットワーク 2006年)

「初めての日本語文法」野田尚史 (くろしお出版 1991年)

「アンドラゴジーと人的能力開発論」堀薫夫

### (9) 講座内容

回(※)	開催日	時間数	受講人数	会場	内容
①	11月14日	4時間	524人	大阪府教育センター	全体会：学習者、支援者が全員で教室紹介と発表、講評 分科会：おしゃべりのひろば 作文のひろば 俳句のひろば マジックでつながるひろば 世界の歌とおどりのひろば 世界の文字とことばのひろば なかまづくりのひろば等
②	1月23日	3時間	35人	羽曳野市役所 大会議室	南河内ブロック 学習者、学習支援者による教室紹介、課題研究、情報交換等
③	2月5日	3時間	40人	大阪市立総合生涯 学習センター	大阪市識字教室交流会 コーディネーターによる課題研究と情報交換等
④	2月13日	3時間	62人	とよなか国際交流 センター	豊能ブロック 学習支援者のワークショップ(課題研究と情報交換等)と交流会
⑤	2月13日	3時間	230人	大東市立総合文化 センター	北河内ブロック 学習支援者によるワークショップ 教室発表、ゲーム、河内音頭等
⑥	2月19日	3時間	31人	岸和田市立中央地区 公民館	泉南ブロック 学習支援者によるワークショップ (課題研究と情報交換等)
⑦	2月27日	3時間	150人	堺市立人権ふれあい センター	堺・泉北ブロック 全体会：学習者、支援者が全員で教室紹介と発表 分科会：学習支援者による課題研究と情報交換等、ものづくりのひ

					ろば、おしゃべりのひろば、料理のひろば 全体会：各分科会の発表、次回開催市のあいさつ
⑧ 参考	3月12日	3時間	30人	大阪教育大学天王寺キャンパス	府内で活動する学習支援者を対象とするオープンカフェ (大阪教育大学・大阪府教育委員会共催) ◇日本語学習をどう進めたらえ～やろ (大阪教育大学) ◇識字・日本語活動なんでも井戸端会議 (識字・日本語研究会) ◇日々の苦勞を聞いて～な!! (大阪府教育委員会)
⑨ 参考	3月13日	3時間	30人	八尾市立八尾中学校	中河内ブロック 学習者、学習支援者による教室紹介、課題研究、情報交換等
⑩ 参考	3月19日	3時間	30人	大阪市立総合生涯学習センター	大阪市地域日本語教室研修会 支援者を中心に課題研究と情報交換等

## (10) 講座の評価

### ① 受講生に対するアンケート

- ・上杉先生の講義や他の教室の支援者の話から、個人でどうしたらよいかと想っていたことがずいぶん解決できました。
- ・横のつながりができるのはとても大切なこと。ボランティアの皆さんの活動は本当に素晴らしい。
- ・今日は本当にありがとうございました。勉強になりました。
- ・他市町の取組みや課題がよくわかり、自分たちの教室との違いや共通点がよくわかりました。自分たちがしないといけないことがよくわかった。
- ・時間が足りなかった。グループを替えながらもっといろいろな支援者の声を聴きたい。進行係の市の担当者の方に感謝。
- ・北河内の研修会でおもしろいゲームがあった。うちの教室でも試してみたい。
- ・グループでの意見交換がもっともためになる。学習者も交えてのグループワークもおもしろいのではないか。
- ・全体研修会の「作文のひろば」が印象的。教室から帰宅する時の職務質問の話は本当にひどいと思った。言語障がいのある学習者が、読み書き学習への思いを一生懸命に語っておられたのは忘れられない。当たり前のように学校へ通っている子供たちや保護者に聞かせたい。
- ・行政担当者の話がよかった。いろいろ工夫して取り組んでもらっていることがわかった。

- ・地域によって教室の状況がかなり異なることがわかった。今日のような機会をもっとつくってほしい。
- ・各教室の現状がわかった。生徒にどのようなテキストを用意したらよいか……。
- ・本日はありがとうございました。久しぶりに学習者の気持ちになり、基本的なことの復習、再確認の良い機会を得ることができました。他の方のアイデアを聞いたり、実際に書いて勉強になりました。
- ・日々、中国からの帰国者（残留孤児とその家族中心）と学んでいます。参考になりました。ありがとうございます。
- ・今まで習ったことの復習も兼ねて、勉強になりました。
- ・具体的にいろいろ例をあげて説明していただいたので、わかりやすく、今後の参考になりました。ありがとうございました。
- ・以前に受けた講習を思い出して、新たに日本語を教える難しさ、楽しさ、そして自分も勉強しなくてはと思いました。ありがとうございました。
- ・学習の進め方の説明がわかりやすかった。教室外でのたのしい交流も必要です。
- ・正しい日本語の勉強ができました。いきとどいた説明とはっきりしたボイスですばらしかったです。
- ・日本語を伝えるのは、難しいと思いました。
- ・楽しかったです。泉北研修会での料理教室で中国の方に習った水餃子の作り方は、うちの教室でもやってみたいと思います。
- ・より実践的な指導方法を教えていただき、ボランティアへの興味、関心がますます強くなりました。
- ・改めて人に日本語を教えるのは難しいなと思いました。そして、生活支援の大切さもわかりました。
- ・単語一つでも、その単語の漢字やカタカナやひらがなで教えるのではなく、絵や写真を使って教えるのが良い方法だと思いました。後あと、日本語の文法を勉強するのではなく、歴史や文化もこれから自分自身学んで行こうと思いました。
- ・地図を作って、説明する際にも、日本語にも地域の環境にも不慣れな方を対象にするのを意識することは、大切だと感じました。新しい視点ができて参加させていただいて、良かったです。ありがとうございました。
- ・昨年、ボランティア養成講座を受講し、登録したのですが、活動はまだしていません。このままでは無駄になってしまうかなと思い、事後研修のつもりで参加しました。大変面白かったです。ありがとうございました。
- ・具体的に教室での活動を行う上で大変参考になりました。教材として何を利用したらよいかを知りたいと思っていましたが、教えていただいたことを参

考にいろいろ試してみたいと思います。何を習ってみたいか良く分からない方に、何をどう教えてあげたら良いかや、日々の悩み事を話すことの大切さについても教えていただくと嬉しいです。ありがとうございました。次回を楽しみにしています。

## ② 実施主体からの研修内容結果評価

初回の全体研修で 400 名以上の申し込みがあった。(会場や関係者と協議し、申込者全員に受講していただくことにしていた。) 当日参加の方もかなりおられたようだ。全体会と分科会を同じ建物の中でできたことはとてもよかった。参加者の感想は皆さんたいへんよかった。地区別研修会でも同じように、参加者からは「とてもよかった」という感想がほとんどである。

研修内容については、学識者や行政職員等による学習支援に関する総合的な内容と、ボランティアどうしが意見・情報交換する内容とがバランスよく組み込めていて、受講者から大変有意義であったとの感想が寄せられた。特にワークショップの時間を十分設けたことにより、学習支援活動の経験者と未経験者が意見を出し合いながら学ぶことができた。また、学習者を交えてワークショップを行ったところも、有意義な意見がいくつも出ていた。

本事業の目的の1つは、日本語学習支援者のスキルアップであったが、5人程度のワークショップが最も好評であったようだ。ボランティアどうしの情報交換の場が継続的にほしいという意見がとても多いので、実現していく必要がある。

また、新たな地域人材を発掘し、養成することも目的の一つであったが、「関心はあるがまだ活動はしていない」という受講者も、経験者といっしょに考え、活発に意見交換がなされており、受講後に日本語教室での活動に参加する意欲がみられた。

また、現在活動中の人たちの中には教材や学習の進め方についての悩みを抱えている人も多かったが、日本語教育の現状や日本語学習支援の基本的な考え方など、研修の中で知識を深めることができたと同時に、今後の学習支援に多いに役立てることができるものと思われる。このような研修を実施することで、支援者の裾野を拓げるとともに、支援者が悩みや迷いを持ちながら活動を続けることなく、充実した教室での学習支援活動ができるようになることを実感した。

参加者の中に、夜間中学校の生徒の参加もあった。次年度は、地区別研修会の広報は、夜間中学校にも行う必要がある。

## ③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

府民の生活の基礎を支える日本語教室の充実のために、以下のような取組みを計画している。

- ・必要とされる地域で新たな教室の立ち上げに取り組む
- ・教室をつなぎ支援者の交流・情報交換を活発にするとともに、課題を共有し、問題解決に取り組む
- ・地域の日本語学習支援ボランティアによる教室に適した教材を使い、活用の仕方や学習支援の留意点などを研修する機会を提供する

そうして、日本語の習得が十分でなく、社会参加ができずに困窮している外国人等のセーフティネットの構築をめざす。

## (11) 事業の成果

### ① 他事業との連携

大阪府では、学習支援者の養成やスキルアップだけでなく、行政の市町村ネットワークづくりや新たな教室の立ち上げ支援、学習者の多様化に対応できる教材開発、関係情報の一元化発信等、日本語学習活動に総合的に取り組んでいる。

### ② 研修後の人材活用

今回のような研修を実施することで、支援者の裾野を拓げるとともに、支援者が悩みや迷いをもちながら活動を続けることなく、充実した教室での学習支援活動ができるようになることを実感した。「関心はあるがまだ活動はしていない」という受講者も、経験者といっしょに考え、活発に意見交換がなされており、受講後に日本語教室での活動に参加する意欲がみられた。

## (12) 今後の課題

外国人に対する生活情報・災害に関する情報をはじめ様々な情報のほとんどは地域の日本語教室から得ているという実態が、全国でも大阪府においても実態調査で明らかになっている。「日本語が上手になっても日本人の友達は増えない」という現実がある。さらに、学習者・支援者にとっての学級・教室の意味について、学習者・支援者にとって、学級・教室は「漢方薬のような安心できる場所」であり、「人生の意味や生き方を再発見し、創造する場所」であり、「社会に出ていくためのベースキャンプのような存在」である。ゆえに、教室の支援者の役割は非常に大きく、生活相談、安心できる居場所づくり、学びやすい関係づくり、学習のための仲間づくり、学習の雰囲気づくりなどのすべてがボランティア任せになっているのでは、あまりにも負担が大きい。教室と地域がさらに交流を深め、地域全体、社会全体で支えていかなければならない。そのためにも、市町村行政担当者のネットワークづくりは不可欠である。

しかし、現状では各教室での活動が精一杯で、他の教室や地域とつながる余裕がないという支援者が多い。また、教室のある地域の地元住民に教室の存在や活動が十分に知られていないところも多い。教室の形態や趣旨は色々な特徴があってもよいが、教室と身近にいる学習希望者だけをみるのではなく、少子高齢化が進み、ますます外国人労働者や国際結婚が増加する日本社会において、外国人にとっても日本人にとっても住みやすい社会づくりが重要であるとの視点を持ち、多文化共生社会における教室の役割を認識しながら活動できる支援者を養成し、教室の基盤を支え、持続可能な活動ができるようしくみや施策のもとで、継続して支援者の資質の向上と新しい人材の発掘養成をしていかなければならない。